13　工業

学校番号	3006

令和２年度　工業科（工学系）

教科	工業	科目	工学実習	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

２年次に引き続き、将来の進学先の理工学部の基礎となる各分野での基礎実習・実験を行い、それぞれ現象や体験を通じて理工学部での学ぶ研究の基礎を習得する。

２　学習の到達目標

機械分野では、製作したものを図面化したり、ＣＡＤを使った図面作成を行う。電気分野では、電子回路の基礎やモータなどの電気機器を学び、情報分野においては表集計ソフトを利用し、測定データの集計処理やグラフを自動表示させて、それを発表出来るように、プレゼンテーションソフトを使って発表原稿を作成する練習を行う。環境化学分野においては、実験を通じて無機化学を学習し、無機物質についての知識を習得する。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	機械加工，電気技術,環境化学に関する課題について関心をもち、その改善・向上をめざして主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	機械加工，電気技術,環境化学に関する諸課題の解決をめざして思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に大学進学し、将来後技術者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	機械加工，電気技術，環境化学に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、安全衛生や環境に配慮し、ものづくりを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	機械加工，電気技術，環境化学に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における工業の意義や役割を理解している。
評価方法	学習状況の観察 ワークシートの記述 製作品 レポート・口頭試問 自己評価 等	学習状況の観察 テキスト、ワークシートの記述 製作品 レポート・口頭試問 自己評価 等	学習状況の観察 製作品 レポート・口頭試問 自己評価 等	学習状況の観察 テキスト、ワークシートの記述 製作品 レポート・口頭試問 自己評価 等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	機械・電気・情報・化学実習	・CADによる図面作成 ・半導体デバイスの特性 ・プログラムの基礎 ・無機物質(非金属元素)	○ ○ ○	○ ○ ○	◎ ◎ ○	○ ○ ○	a:各分野の実習内容に興味を持ち、前向きに取り組む。 b: 実習テーマの趣旨が理解出て、実験手順等の流れが理科出来ている。 c: 操作や計測ができる d: 実習内容を理解し、結果をまとめる事が出来る。	学習状況の観察 テキスト、ワークシートの記述 製作品 レポート・口頭試問 自己評価等
2学期	機械・電気・情報・化学実習	・CADを使った図面作成 ・電動機の諸特性 ・プログラムの応用1 ・無機物質(典型元素)	○ ○ ○	○ ◎ ○	◎ ◎ ○	○ ○ ○	a:各分野の実習内容に興味を持ち、前向きに取り組む。 b: 実習テーマの趣旨が理解出て、実験手順等の流れが理科出来ている。 c: 操作や計測ができる d: 実習内容を理解し、結果をまとめる事が出来る。	学習状況の観察 テキスト、ワークシートの記述 製作品 レポート・口頭試問 自己評価等
3学期	機械・電気・情報・化学実習	・CADを使った図面作成 ・移相型発振回路 ・総合プログラムの作成 ・無機物質(遷移元素)	○ ○ ○	○ ○ ◎	◎ ◎ ○	○ ○ ○	a:各分野の実習内容に興味を持ち、前向きに取り組む。 b: 実習テーマの趣旨が理解出て、実験手順等の流れが理科出来ている。 c: 操作や計測ができる d: 実習内容を理解し、結果をまとめる事が出来る。	学習状況の観察 テキスト、ワークシートの記述 製作品 レポート・口頭試問 自己評価等

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。